

第 61 回日本神経学会（岡山夏大会）における新型コロナウイルス感染予防対策

2020年7月3日現在

< 1 : 入場時の対策 >

- ・実参加 **check-in** 時に予めダウンロードして記入した「健康状態申告書」を提出して貰う
- ・サーモカメラによるチェックゲートを4施設入口に設置する（発熱感知 → 別室で体温測定問診、医務室へ誘導も）
- ・各施設ならびに各会場への入場人数をカウントし、最大収容数の50%未満の入場制限とする
- ・参加者のマスク着用を徹底する（持っていない人にマスク配布）
- ・スタッフの健康状態把握（出勤前の検温確認、咳、呼吸困難、倦怠感 → 体調不良時の出勤停止）

< 2 : 消毒の徹底 >

- ・参加受付、各会場入口、PC受付に除菌液を設置（アルコールスプレー、ジェル等）
- ・各会場内の演台と座長席に除菌液を設置（スプレー、ジェル等） → 登壇時に座長・演者の手指を消毒（キーボード、マウス、レーザーポインターなどに触れる前に使用してもらう）
- ・スタッフによる演題毎の座長席の機器、演台、マイク、ドアの除菌作業実施（マイクは毎日滅菌消毒？）
- ・スタッフは業務前～業務終了後まで、マスク着用、頻回の手指消毒、咳エチケットを励行する

< 3 : 換気の徹底 >

- ・各施設ならびに各会場の窓は常時開放しておく
- ・各会場の出入ロドアは常時開放しておく
- ・各会場ならびに通路にある排気用換気扇は常時最大稼働させておく（約20分で一巡）
(参考：空気一巡時間 → 航空機5分、新幹線7分)

< 4 : 施設や会場内での空間確保と感染予防 >

- ・インターネット配信する4チャンネル会場とWeb参加2会場は既に3施設に分散 distance させている
- ・各会場への入室人数は最大収容数の50%未満制限とする
- ・各会場内の座席は1m以上の距離を確保するように配置する
- ・ランチやイブニングセミナーでは、開始前のホール等での行列を作らないように現地誘導する
- ・ランチやイブニングセミナーでは、飲食中の会話は出来るだけ控え、食後は直ちにマスクを着用する
- ・実参加者は医療関係者としての自覚を以って、政府が発行する濃厚接触追跡アプリ **COCOA** を開会前2週間、会期中、閉会后2週間は使用する
- ・実参加前に **COCOA** アラート通知が来たらPCR検査を受けて陰性を確認してから参加する（PCR検査機関はお手数ですがご自分で手配ください）。もしPCR検査を受けることが出来ない場合は2週間体調観察してから参加するか、Web参加に切り替える。大会期間中に **COCOA** アラートが通知されたら、大会事務局に連絡し指示を待つ。
- ・演者と司会者の前には透明ビニールシールドを設置する。演者も司会者も質問者もマスク着用のまま発言可

< 5 : PC受付での感染予防 >

- ・人が密集しないように発券機で整理券を配布し、広いスペースを確保するように配置する
- ・対面応対しない環境を整備する（透明ビニールシールド活用）
- ・持参したUSBは演者自身でチェックイン接続確認をしてもらう
- ・スタッフはPC受付終了1人毎にキーボードやマウスの消毒を徹底する
- ・演者持込PCは、各会場内のオペレータ席では預らず、演台に出ているケーブルを演者自身に接続して貰う

< 6 : 医務室の設置とコロナ疑い者への対応策 >

- ・各施設への入場時の発熱者は、別室で体温測定や問診を行い、必要に応じて医務室へ誘導する
- ・学会場近くのコロナ指定岡山市立病院等と連携して、コロナ疑い患者の診察が直ちに可能になる体制を確保している
- ・もし会期中に参加者からコロナ患者が発生した場合は、上記アプリも活用し学会中止も含めた緊急対応策を講ずる
- ・会期終了後3週間は参加者からコロナ患者が発生するかどうかを追跡し（参加者への報告要請）、必要策を講ずる

以上